

BRUCKNER 7

息吹く大地、悠久の調べ。地球は驚き、星はぐるぐる回る。



指揮 **マリオ・ヴェンツァーゴ**
Conductor MARIO VENZAGO
ブルックナー作品を得意とするスイスの名匠

ヴァイオリン **諏訪内 晶子**
Violin AKIKO SUWANAI
世界で活躍している日本を代表する名手



細川 俊夫：ヴァイオリン協奏曲「ゲネシス(生成)」
TOSHIO HOSOKAWA: Violin Concerto "Genesis"

ブルックナー：交響曲第7番 ホ長調 WAB107(ノヴァーク版)
BRUCKNER: Symphony No. 7 in E major, WAB107 (Nowak edition)

※当初の発表から一部曲目が変更になりました

読売日本交響楽団 第655回 定期演奏会
YNSO Subscription Concert No. 655

2026 **2/4** 〈水〉 19:00 **サントリーホール**
Wed. 4 Feb. 2026, 19:00 Suntory Hall

S ¥8,800 A ¥7,700 B ~~SOLD OUT~~ C ~~SOLD OUT~~

読売チケットセンター 0570-00-4390 (10時~18時・年中無休)

マリオ・ヴェンツァーゴ (指揮)

ブルックナー演奏で高い評価を得ているスイスの名匠。チューリヒ生まれ。ウィーン国立音大でハンス・スワロフスキーらに師事。これまでにインディアナポリス響、ウィンタートゥール・ムジークコレギウム、ハイデルベルク市歌劇場、グラーツ歌劇場、ハーゼル響、バスク国立管、イエーボリ響などの音楽監督を歴任。2010年から14年まで王立ノーザン・シンフォニアの首席指揮者、10年から23年までスイスのベルン響の首席指揮者兼芸術監督を務めた。ベルリン・フィル、ボストン響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランス国立放送フィル、ロンドン・フィルなどの楽団に客演。録音も数多く、特にCPOLレーベルでのブルックナーの交響曲全集は、国際的に高い評価を受け「斬新な演奏」として日本でも話題を呼んだ。読響には21年、23年に客演し、絶賛された。

諏訪内 晶子 (ヴァイオリン)

世界各地で活躍する国際派ヴァイオリニスト。1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでにサヴァリツシュ、スクロヴァチェフスキ、ブーレーズ、マゼール、メータら巨匠の指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、バリ管、ベルリン・フィル、ロンドン響など国内外の主要オーケストラと共演。幅広いレパートリーを持ち、ベンデレツキ、エトヴェシュ、マクミラン、サロネンらの協奏曲を日本初演するなど現代作品も積極的に手掛けている。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督として腕を奮っている。録音では専属契約を結ぶデッカ・レーベルから数多くのCDをリリース。使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住の Dr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグァルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

© TAKAKI KUMADA

名匠ヴェンツァーゴが振るブルックナー7番 国際派・諏訪内晶子が細川俊夫の「ゲネシス」を弾く！

ブルックナー演奏で国際的に高い評価を得ているスイスの名匠マリオ・ヴェンツァーゴが、2021年、23年に続き、3度目の客演を果たす。

読響初登場の21年11月、ブルックナーの交響曲第3番を振り、日本のブルックナー・ファンに衝撃を与えた。マズア、レークナー、アルブレヒト、スクロヴァチェフスキ、下野竜也、カンブルランらが築いてきた読響のブルックナー演奏史に、新たな一頁が刻まれた。2度目の客演となった23年9月の交響曲第4番「ロマンティック」でも期待を上回る演奏で終演後の会場は大いに沸き、音楽専門誌などでも絶賛された。

ヴェンツァーゴのブルックナーは、楽譜の細部まで浮き彫りにするような透明感にあふれていて、総じて柔らかなサウンドが特徴と言えるだろう。モーツァルトやシューベルトの延長線上にあることを感じさせるようなブルックナーだ。

今回、ブルックナーの交響曲の中でも最高傑作と呼び声高い交響曲第7番を披露する。地球の大自然への敬意と人類への温かな愛を感じさせる壮大なスケールを持つ交響曲だ。この深遠な美しさに満ちている第7番で、百戦錬磨のマエストロがどのような音楽を展開するのか、興味は尽きない。きっと新たな世界を見せてくれるだろう。

前半には、国際的に活躍している日本を代表するヴァイオリニストの諏訪内晶子が、日本を代表する作曲家・細川俊夫のヴァイオリン協奏曲「ゲネシス(生成)」を弾く。諏訪内は、自身が芸術監督を務める「国際音楽祭NIPPON」などで現代作品を積極的に取り上げている。24年12月にドイツのケルンにて、「ゲネシス」をケルン・ギュルツェニヒ管と演奏して高い評価を得た。「ゲネシス」は、人の命の生成をテーマに書かれた作品。独奏ヴァイオリンが一つの人間を表し、それを囲むオーケストラによる自然界や宇宙とともに成長し、溶け合う様子が描かれている。諏訪内が細川による独特な世界観をどのように表すのか、ご期待いただきたい。

読売日本交響楽団 第655回 定期演奏会

2026年2月4日(水) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥8,800 / A ¥7,700 / B **SOLD OUT** / C **SOLD OUT**

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時~18時・年中無休

読響チケットWEB <https://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料

プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。

■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。■読響ホームページ <https://yomikyo.or.jp/>

